

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000234		
法人名	社会福祉法人 一誠福祉会		
事業所名	グループホームくら(Aユニット)		
所在地	愛知県豊橋市川崎町216-2		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000234-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、私たちは、入居者の皆さんがいつまでも笑顔で暮らせる家になるようにお手伝いします。
 2、私たちは、入居者の皆さんの生活習慣を大切にしながら、3S(smile, speed, smart)の精神で接していきます。3、私たちは、入居者の皆さんの尊厳をいつまでも大切にしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは特養と併設されていることで、非常災害時や利用者の急変時等の際には、事業所間で連携した対応が可能であることで、利用者、家族にとっては安心して過ごすことができる環境が整えられている。日常生活においても、利用者によりゆとりと過ごしてもらうために、フロア内に施設を行わず、開放的な雰囲気をつくっている。建物のエレベーターについても利用者も動かす事ができることもあり、利用者の様子を見ながら、随時外に出るような対応も行われている。ホームでは、2階のフロアのスペースを活用しながら定期的なカフェの取り組みを行っており、利用者にメニューを選んでもらいながら喫茶を楽しんでもらう取り組みを行っている。また、避難訓練の際には、事業所全体で取り組んでおり、合間で備蓄品を確保する等、利用者の安全の確保に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	1)全ユニットに掲示してある。 2)定期的に朝礼で理念を再確認している。	法人のノーマライゼーションの基本理念を基に、ホームでも独自に理念に付け加えている。理念をホーム内に掲示しており、朝礼の際に振り返りの機会をつくる等、日常的に意識するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	1)散歩時ゴミ拾いをしている。 2)地域主催の行事に職員と共に参加している。	併設の特養と連携しながら事業所全体で地域の方との交流の機会をつくっており、地域の行事への関わり等の交流が行われている。また、避難訓練の際には地域の方にも案内を行っており、協力関係に取り組んでいる。	地域の方との交流については、ホームを含む事業所の場所が地域の避難場所にもなっていることから、可能な範囲でも交流が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域での地震や津波等、防災の避難所になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族(代表)、入居者(代表)、自治会長、地域包括支援センター担当者に参加してもらい、2か月に一度開催している。写真など紹介、意見交換を行っている。	併設の特養との合同で開催しており、出席者に事業所全体の状況を知ってもらうよう取り組んでいる。また、利用者が参加していることで、直接、日常の暮らしぶりを話してもらう機会にもつながっている。	現状、出席者の都合がつかない事が多く、出席者が限定された方になっている。地域の方や家族への継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域の方にも運営推進会議にも出席してもらっている。	市で行われている講習会や研修会等の際には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換の機会をつくっている。また、地域包括支援センター職員とも運営推進会議等、情報交換の機会につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	1)対象となる具体的な行為を理解している。 2)身体拘束員会を開催している。	エレベーターが利用も動かす事ができることと、特養のユニットが1階と3階に分かれている事もあり、事業所間での連携に取り組んでいる。また、専門の委員会にはホームも参加しており、研修等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	1)関連する研修に積極的に参加するようにしている。 2)常に管理者と職員間でコミュニケーションとり、ケアの内容を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連する研修に参加するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の際には、不明な点の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	1)運営推進会議を行っている。 2)家族とのコミュニケーションを良好に保つよう努めている。	ホームの行事の際には家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。要望等については、ホーム管理者の他にも特養の相談員も対応することが可能である。また、法人の便りをホームの便りとして発送している。	ホームからの定期的な便りについては、現状、法人からの便りとなっている。ホームからも独自に便りを作成する事で、細かな情報提供につながる事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1)職種別ミーティングならびに会議、委員会で職員の意見を吸い上げている。 2)毎月、リーダー会を開催し、意見やアイデアを出し合っている。	日常的に職員間で意見交換を行いながら、各ユニットのリーダー会議を通じて、職員からの意見等の反映につなげる取り組みが行われている。また、併設の特養とも連携しながら委員会を通じた活動を行っており、職員からの意見等につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1)人事考課を行っている。 2)業務の一環として各種研修参加をしている。 3)希望する日に休みを取れる様、配慮して勤務シフトを作成している。 4)年2回、自己評価を行い改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1)専門知識向上の為、施設内で各種試験を実施している。 2)各種研修への参加を後援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人内にグループホームが3施設あるため、情報の共有をしてサービス向上につなげていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ゆっくりと会話をする時間を作り、不安なことや要望などを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に時間をかけて面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	老健、デイサービスなどのサービスについて説明し、グループホームが最善策であるか、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居前の自立して生活していた頃の状態を把握し、食事の準備や洗濯など生活動作に関われるように配慮した声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者と家族の関係に立ち入らぬよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出など、家族が来れない時は代わりに行くようにしている。	利用者の中には、入居前からの関係の方との交流を継続している方がおり、ホームに来てもらったり、会いに出かけることもある。また、行きつけの喫茶店に出かけている方もおり、その際にはホームでも支援したことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話が生まれやすい様に職員が仲立ちするなどして配慮している。趣味、会話内容、落ち着いて過ごせる空間も配慮している。不仲が発生すれば、その都度席替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GHを退所して、療養病院へ入院した方でも、家族の希望で終末期をGHで迎えたいと希望があったため、居室を期間限定ではあるが確保している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の時間を多くとり、その中から聞き出せるよう努めている。	日常的に職員間で意見交換を行っており、申し送りノートや業務日誌等に記録を残す事で、利用者に関する情報の共有に取り組んでいる。また、カンファレンスを随時行っている事で、利用者に関する意向等の反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族に聞き取り、適宜把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1)調理、掃除など日常生活を行ってもらいながら状態を確認している。 2)記録を基にカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	こまめに家族や主治医と連絡を取るようになり、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画については、3か月毎にこまめに見直すように取り組んでいる。モニタリングについても見直しに合わせて実施している。また、モニタリングの際には職員にも関わってもらうようにしており、変化に合わせた見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を基に、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	業務をマニュアル化せず、柔軟に取り組んでいる。入浴時間は、日勤職員が居る間の9時～19時で本人の希望時間に対応する。朝食の提供は、本人の意思で起床した時間(現在6時30分～9時30分)にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の活動や行事に積極的に参加する様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	馴染みのあるかかりつけ医に受診している。また、各々のかかりつけ医とは詳細な情報交換が出来る様努めている。	多くの方が今までのかかりつけ医を継続しており、家族により受診が行われているが家族による対応が困難な場合には、ホームでも対応が行われている。また、看護師が勤務しており、利用者の日常的な健康チェック等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、看護師に情報を提供し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、安心して治療できるように、又、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。その際、家族の希望を尋ねている。家族と相談して終末ケアを考えて療養病院へ転院した事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	1)入居時に、重度化した際の家族の希望をたずねている。 2)実際に重度化の兆候が出現した場合にも再度、家族と相談している。 3)施設で出来る事を十分に説明している。	利用者が重度になった際には、ホームでも可能な支援が行われており、開設以来、利用者の看取りを見据えた支援も行われている。法人の母体の医療機関との連携も行われており、利用者の身体状態に合わせた家族との話し合い等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルを作成し、職員に周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	1)防災訓練を行っている。 2)運営推進会議でも、災害時の相互支援について話し合っている。	避難訓練については、併設の特養との合同で開催されており、職員間の連携に取り組んでいる。訓練を通じた消防署の協力も得られている関係でもある。また、水、食料等の備蓄品についても事業所全体で確保されている。	事業所の場所が地域の避難場所でもあるため、特養とも連携しながら、継続した地域の方との協力関係をつくる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	特にスピーチロックに注意し、生活空間内で大声を出さない様、心掛けている。	理念に掲げている利用者の尊厳に配慮した対応を行うように、職員による言葉遣い等、日常的な注意喚起等の取り組みが行われている。また、法人で研修会の機会をつくっており、職員の振り返りにつなげる取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションをとり、傾聴することで、ニーズを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一律の介護を行わない様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々、着るものは本人の希望を聞いて選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	下準備からもちつけ、配膳まで参加してもらえる様、努めている。	食材業者のメニューに基づいて調理を行っており、ユニットによりアレンジも加えられている。利用者の調理や片付け等のできることに参加している。また、行事等に合わせた食事作りの他、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1)食事摂取量及び水分補給量を確認している。 2)個別の注意点も把握し、支援している。 3)排便コントロールも確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケア、歯磨きの援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	1) 個々の排泄パターンを把握した声掛け、定期誘導を行っている。 2) 出来る限り本人が自立できる環境が作れる様、職員間で話し合い、決定している。 3) オムツ類のサイズ調整を検討している。	利用者全員の排泄記録を残しており、日常的な申し送り等を通じて職員間での情報の共有に取り組んでいる。また、利用者が自身でトイレで排泄ができるように、居室の収納スペースを活用する等の工夫も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	1) 下剤に頼る前に運動又は水分量を増やすことを促している。 2) ヨーグルトを毎日提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている。	週2回の入浴の方が多いが、希望によりそれ以上の回数入浴支援も行われている。利用者の生活リズムを大切にしながら、夕食後の入浴も実施している。また、同じフロア内に機械浴の設置も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1) 日中は体を動かせる場を作り、夜間は安眠できるように努めている。 2) 起床、就寝時間は各々の生活リズムに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	1) 処方箋及び薬のデータをファイルに挟み、都度確認している。 2) 副作用による変化がないか、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1) 炊事、掃除、洗濯など役割を持ってもらうことで張り合いを感じてもらえる様支援している。 2) 嗜好品、趣味の活動を行なえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	1) 希望者とは買い物や散歩出来る様努めている。 2) 日常的に行きたい場所のアンケートを取り、順次叶えている。	ホームが開放的な雰囲気であることで、利用者が日常的に外に出ることができるような取り組みが行われている。季節に合わせた外出行事が行われており、外出の機会をつくっている。また、個別の買い物等の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布の持参も認めている。金銭管理も行っている。こづかい管理も行っており、外出時にはこづかいをもっていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	1)年賀状を家族に書いている。 2)電話等入居者からの希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者間の相関関係を考慮した座席配置をしている。	リビングがゆったりとしている他にも、同じフロア内にカフェを行っている共用のスペースが確保されていることで、利用者の好みの場所で過ごしている。また、季節に合わせた飾り付け等の取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1)仲間単位で過ごせる様に留意している。 2)一人になりたい方は部屋で過ごす事を勧めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべくご自宅で使用された物品で居室が埋まる様提案している。	居室には、利用者、家族の希望等に合わせた環境づくりが行われており、家具類やテレビ等の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気な方もいる。また、家族の写真をはじめ、作品等の掲示も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	行動を束縛せず、建物内を自由に動いてもらっている。		